

令和4年度 市民大学特別講座プログラム（案）

「親子で学ぶ「作って触って謎解き！？日本の美術作品」」

1 趣旨

私たちの生活環境は、多くの情報、便利な道具、多様な様式に囲まれています。しかしながら、日本人として自国の伝統的な文化に触れる機会や、鑑みる時間は少なくなっているように見えます。忘れてしまった様式や作法、伝統的な技法を、簡単な演習課題を通して、日本の美を、柔らかく学び取ることを目的としています。講義のみではなく、実際に手を動かした実技、ワークショップを絡めながら、親子での世代を超えて繋がる授業環境を考えていきます。

2 学習方法 講義

3 曜日・時間

土曜日 午前・午後 10 時 ～ 午前・午後 12 時

4 講座コーディネーターおよび講師 新潟大学大学院現代社会文化研究科 准教授 永吉 秀司

5 主な受講対象者（ターゲット）

小学校1年生～中学3年生

6 プログラム・指導講師

回	月日	テーマ	内容	講師
1	7/23	昔の人ってどういう風に絵を描いていたの？	郷土にゆかりの作家や職人の作品をもとに、それらがどのような素材で描かれていたかディスカッションしながら理解を深めていきます。	新潟大学大学院現代社会文化研究科 准教授 永吉 秀司
2	7/30	昔の絵の具って、どんなものなの？	絵具の由来、産地、精製方法について説明し、鉱物顔料などの実物を紹介した後、新潟市内の各地方にある泥を使用し、参加者が実際の絵具の顔料を生成します。	新潟大学大学院現代社会文化研究科 准教授 永吉 秀司
3	8/20	昔の絵にある金色は、どうやっているの？	箔の由来、産地、精製方法を紹介後、実際にどのように箔が扱われているか、平押し、砂子の手法を体験します。	新潟大学大学院現代社会文化研究科 准教授 永吉 秀司